

(旧) 県民交流広場 全県オフィシャルホームページ 掲載記事

掲載コンテンツ：リレーコラム

掲載時期 平成 22 年 11 月

テーマ 縦横のつながりの再創出を目指して

寄稿者 尼崎市・尾浜区県民交流広場地域推進委員会 事務局スタッフ 西尾 早代

日本は縦社会！？

かの有名な中根千恵氏がその著書の中で示したように、日本＝縦社会、欧米＝横社会という概念が現在ではすっかり定着しています。少なくとも日本において、「日本は縦社会だ」という人は少なくありません。

ここで、縦社会とは何かについて考えてみたいと思います。氏の言葉を借りれば、個人の上下関係が社会における主要な関係になっている社会ということになります。確かに、現代の日本においても、この個人の上下関係というものは社会において主要な役割を果たしています。そして、この縦社会というのは「個人」同士の関係だけではなく、国家と国民、企業と消費者、地域行政と市民という関係でも大いに成り立っていると考えられます。

「お上の言うことは仕方がない」と我々日本人の多くは思っています。確かに、これには、ひとつのまとまりをつくりやすいという側面もあります。しかし、このことは同時に、上下の関係でいえば「下」にあたる市民を、ある意味で指示待ち市民にしてしまったのではないかと、とも考えられないでしょうか。

お上＝絶対であるが故、お上からモノを言われるまで待つ、そんな消極的な市民が増えてるように考えられます。そういう関係性の中には、横のつながりは生まれにくいものです。横のつながりは、それぞれ自立した関係をベースに成り立つものだからです。

こんな縦社会にひとつ、メスを入れてやろうと立ち上がったのが、私たちの活動だと思っています。

プラス型の地域

昨今の世の中はとても便利になりました。ちょっとパソコンを開けば、外へ出なくとも何でもわかってしまう。そんな便利な世の中です。しかし世の中が便利になればなるほど、人と人とのつながりというのは希薄になっている気がします。

縦社会で成り立ってきた地域コミュニティは、〇〇一家・共同体として、同質性ベースで成り立ってきました。そこでは、異質な存在は排除するという形で存在するコミュニティでした。それに対して、横社会で成り立つ地域コミュニティは、異質性をも包含するコミュニティではないでしょうか。ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）という理念を生かすという新しい地域コミュニティを構築しようという実験をやろうとしているわけです。

私たちの生活する尾浜町では、今、「おう」という地域通貨を媒介として、プラス型の地域をつくろうと日々奮闘しております。

プラス型の地域とは、地域通貨「おう」が地域市民を横につなげる紐帯として機能させようという試みを通じて、そこに「自治」が成立するという地域のことです。地域の人がおたがいに支えあい・助け合う日常的関係の上に、地域ガバナンスを成立させようという試みです。

言葉で言えばたいそうな表現になってしまうのですが、活動としては、様々なイベントを仕掛けたり、地元の商店街で「おう」を使えるように協賛店を探しまわったり、日々の生活のちょっとした困難に対するお手伝いをしてくれるボランティアの方々を募ったりという活動をして地域の横のつながりの下支えをしております。

少しずつですが、「おう」は定着してきており、「おう」があるから尾浜町へ買い物に行こうと尾浜町へ足を運んでくれる人が増え、そして商店街の活性化にも少しずつですが貢献してきています。また、お祭りを毎年、同じ時期に開催し定着させることで、今まで話すことのなかった人とそれを機に知り合いになる・昔の同級生が実は近くに住んでいたなど、出会いの場を提供することにも、一歩ずつ着実に貢献していると考えています。

強い地域をめざして

「強い地域」とはなんのでしょうか。私たちは、「突然の災害など、予想外の何かが起こっても迅速に対応できる地域」であると考えます。

儒教四書のひとつである「大学」を引くのも大業ではありますが、この「大学」の中に「其国を治めんと欲する者は、先ず其家を斉ふ」という一文があります。つまり、我々の国日本をよくするためには、まずは地域から良くしていかなければならない。こう置き換えることができるのではないのでしょうか。

私たちは、限られた小さな地域での日々の活動ですが、活動は小さくても抱えるネライは大きいものがあると、笑いながら胸を張っています。

これからの時代「地方」がとても重要な役割を担っていくこととなるでしょう。

その「地方」を支える住民どうしが強固な関係をつくっていくことで、よりよい日本をつくり上げることに貢献できるのではないのでしょうか。